

オアアールベルクが 造・エコ建築の

最先進地域である理由

文：渡川 眞

フォアアールベルク州には、ヘルマン・カウフマン氏に代表されるような地域に深く根差した建築家が何人もいる。優れた技術を有する木造・木工職人と、環境と建築への意識の高い建て主が協働して生み出された、美しい省エネ・エコ建築が高密度に存在する。それらは住民の暮らしの質の高さに繋がっている。本稿では、このような建築の普及の背景を、若い世代の建築家による中小規模の事例も交えながら紹介する。

エネルギー自立を目指す 先進地域

フォアアールベルク州はオーストリア西端に位置する人口39万人の小さな州である。同州のうち、ライン河畔の平野部では精密機械を始めとする中小産業が、その奥ギー消費の5割、資源消費の半分を占める建物分野は、昔も今も同州が最も重点的に取り組んでいる分野である。90年からすでにパッシブハウス基準やバウビオロギー、再生可能エネルギーの普及活動が行われてきた。

また大々的な住民参加のプロセスを行った結果、2050年までにエネルギー自立を実現することを、09年に州議会が全会一致で決議した。同州の総エネルギー消費（熱・交通・電力）に占める再生可能エネルギーの割合は41%であるが、それを100%にするという社会ビジョンである。そのためには総エネルギー消費量を50

に広がる風光明媚な山岳地帯では観光業や木造産業が盛んで、オーストリアの中でも豊かな地域になっている。

同州では1980年代に緑の党が州議会に加わったところから、国内でも先進的なエネルギー政策を実施してきた。なかでも総エネルギー

%減らす必要がある。現在、同州ではこの目標から振り返って策定された20年までの対策パッケージが実行されている。

レベルの高い木造建築

フォアアールベルクには、もともと木造建築の長い伝統があるが、それを過去50年ほどの間、地域の建築家と木造産業の努力により、独自の現代的な木造建築の文化に進化させてきた。特徴として、エコロジカルな建材利用や省エネルギー性、共同体への寄与、経済性と機能性、伝統に根ざしながらも現代的でシンプルなデザイン、職



■ フェルトキルヒアー部

フォアアールベルク州を代表する若手の建築事務所クロヴィッチ・ナハバウアーが、木工会社のオーナーのために設計した木造戸建住宅。2015年竣工。隣接する集合住宅の駐車場に建物南側に接するため、南側は閉鎖的で、西向きの中庭に向かって開放的なデザインになっている。床面積は220㎡で、メインの住居のほか、ワンルームの賃貸住宅が入り、3人の大人と2人の子供が生活する。省エネ性能は平均的な新築の仕様で、窓は3層断熱窓。表面積が大きいこともあり、熱需要は27kWh/㎡年（オ

ーストリアの計算手法）となっている。断熱材にはセルロースと木質繊維を利用。熱源は地中熱ヒートポンプで、暖房方法は床暖房。熱回収式の機械換気を行う。6.4kWの太陽光発電によりゼロエネルギーを達成。必要に応じて2~3世帯に区切れる造りとなっており、家族構成が変わっても長く使える工夫がなされている。建て主が自ら手掛けた無垢の木の内装と家具からなる開放的な空間が端正で美しい

© Adolf Bereuter für Cukrowicz
Nachbauer Architekten



V.R 1